

学校経営目標	具体的目標	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価		
				達成状況	評価	達成状況	評価	
1 学習指導 (真の学力を身に付けさせる)	(1) 授業を大切にさせ、基礎学力の定着を図る。	ICT機器を有効的に活用し、生徒の興味・関心を高め、体験を積むことで知識・技能の定着を計る。  ベル着・教材の持ち帰り・課題提出など、基本的な事項の指導を大切にし、基礎学力の定着を計る。	ICT機器を活用した授業の公開・見学を行い、多くの教員が積極的に活用し、生徒の知識・技能の定着を目指す。  年間を通じて継続し指導する。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、5月に実施されていた公開授業を急遽途中で止めることになったが、校内での授業見学は続けて行った。また、ICT機器の活用は昨年度よりさらに広がっており、選択授業でもHDMI端子を接続する環境が整った。  おおむね落ち着いた学習に取り組めている。	b	11月の公開授業月間では、教員間の相互参観が猛々39名だった。今後も校内での授業参観を積極的に進めて、授業改善に繋げたい。また選択授業のプロジェクターを新しいものに代える準備を進めている。	b	
	(2) 新しい学習指導要領の理念と内容を理解し、体系的な学習の一層の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	新学習指導要領の内容を理解し、次年度入学生から開始される新教育課程における評価方法の研究・作成を行う。  授業における言語活動(ワグット・フグット)の充実を図り、また地域に学習の場を求めることで、体系的な学習の充実を図る。	今年度、発表される評価方法に関する情報について、校内で生徒の学習意欲向上につながる評価方法を構築する。  グループワークなどの言語活動を増やし、他人の考えを受容し、自分の考えを発表できる機会を増やし、コミュニケーション能力を身につける。	学習評価に関する資料を各教科主任と専門科長に配付し、評価規準作成時の参考とする。新しい学習指導要領に基づいた評価の方法の形式を9月末の職員会議で提案する予定である。  グループワーク等の制限もあることから生徒の訓練機会は少ないが、学力向上プロジェクトでは取組の発表機会が設けられている。	b	B	新学習指導要領に基づく評価の方法、年間指導計画、シラバスの形が決まり、内容を作り上げている。さらに学習成績の平均点の範囲について見直しを進めている。  コロナ禍で言語活動の実施が難しい期間が長かったが、可能な部分で実施できた。また保健委員会の発表や、リモート行事における発言機会を通じ、生徒が人前やカメラの前で発言・発表する機会をサポートすることで一部の生徒ではあるが資力の向上が見えた。	a
	(3) 一人1台端末の活用により、生活支援とともに授業の効率化と家庭学習の習慣化を進める。	授業の理解度を向上させるツールとして、端末の活用を模索しながら実践していき、生徒の個別化に対応できるように研究を進める。  端末を活用し、学校からの情報発信や家庭からの課題提出を行うことで家庭学習の定着を試みる。	端末を有効に活用できる場面や方法の情報を教員全員で共有し、さらなる有効な活用方法を見つけて実践する。  GoogleClassroom等の活用方法を学び、教員間及び教員と生徒間で情報共有や課題の提出などを行うことで家庭学習定着を目指す。	新たな教材や説明動画を指導に取り入れることで、学習効率や教科を横断する組織的対応力が向上した。  教員相互の情報交換を積極的にに行い、活用方法を模索している。	b	b	Chromebookの使用などICTを活用した補習により個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った。  教員研修や職員室内における情報交換により、活用範囲が広がり、端末を用いた課題提出なども増加した。	b
2 生活指導 (思いやりの心を育て)	(1) 気持ちの良いあいさつを励行し、整理・整頓・清掃に努め、基本的な生活習慣を確立させる。	全教職員共通理解を図り、科の壁を越えて全員で指導する。生徒会活動や校門指導をおおして生徒自ら気持ちの良い挨拶ができるようにする。  基本的な生活習慣を確立させ、コロナ禍における疾病予防のための健康管理の実践を行う。	昨年度は頭髪指導において生徒課最終指導になった者が0名であった。今年度も最終指導ゼロを目指す。生徒自ら挨拶ができている生徒は増えている。地域に誇れる素敵な挨拶ができる人数を増やそうとする。  基本的な生活習慣の大切さを機会をとらえて伝え、健康管理を行うことで欠席数を減少させる。	頭髪指導(一学期)において生徒課最終指導になった者は0名だった。今年度も減少できるような声かけをする。生徒自ら挨拶ができている生徒が増えているように感じる。大きな声で挨拶する人数を増やしたい。  生徒の健康意識、自分を守る行動の大切さを継続して行う。	b	頭髪指導で生徒課最終指導が第3回で4名、第4回で1名いた。一学期は0名で、各科や担任の先生方の粘り強い指導の成果だと思う。挨拶は1学期に比べ生徒自ら出来る生徒が増えてきたように感じる。あらゆる場面で教職員が生徒に声かけをされている成果だと感じる。朝校門で挨拶をしているが、続けていきたい。	b	
	(2) 生徒・保護者との信頼関係を一層密にし、きめ細かな指導を行う。	遅刻、早退、欠席連絡など、保護者との連絡を密にし、クラス通信やメルマガなどにより学校の様子や方針が保護者へ届くようにする。  LHR等での啓発、学期ごとの面談やアンケート等、開発的・予防的教育相談の取り組みを重視する。目標からきめ細やかな指導で、問題解決的教育相談の件数が減少するよう、教育相談のあり方を再構築する。	保護者との連携はとれていると考えているが、継続していく。学校の教育方針を理解してもらっているか、学校自己評価アンケートで確認する。  アンガーマネジメント講座やhyper-00活用講座などを実施し、感情のコントロールなどができるように指導する。早期に相談しやすいように女子の会等でS CやS Wを紹介し交流を図る。	遅刻早退欠席やコロナ関連の連絡は密に取れている。生活指導に関する事項について、学校の指導方針にご理解いただけない保護者はいるが、丁寧な連絡を続けたい。  感染防止対策のため、左記の2つの講座をリモート形式で実施した。生徒の感想によると、感情のコントロールや思いやりのある声かけの仕方について実践的に学ぶことができたようだ。教育相談課のアンケートへのフォームの導入については慎重に検討を続ける。1年女子の会ではS Cを紹介し交流を図ることができた。	b	B	担任の先生を中心に保護者とは密に連絡を取れている。本校の指導にご意見をいただく場面もあったが、粘り強く説明しご理解いただけるよう努めた。  学期ごとにアンケートを実施し、担任が面談で事実確認を行い、教育相談課がS・C・SSWと連携してカウンセリングなどを行った。年度当初は特別支援教育の研修を予定していたが、個別の配慮方法等はすでに共有できているものも多いため、開発的・予防的教育相談を重視した相談態勢を充実させるための内容に変更し、人権教育委員会と連携して教員研修を行った。	a
	(3) 人権教育を充実し、安心して過ごせる学校づくりを一層推進する。	ケータイ安全教室を実施し、ソーシャルネットワーク上での言葉がどのように相手に伝わっているのか考えさせる。今年もStop itの活用方法を考えさせたい。	言葉の取り扱い、個人情報の取り扱いがまだまだ未熟と考える。SNSの利用方法を理解させる。  保護者から配慮の要望があった生徒について、特別支援教育コーディネーターが中心となり、学習面や生活面でのニーズを定期的に確認する。専門家のコンサルテーションも活用し、クラス担任・教科担任と連携して支援を行う。	SNSの利用はまだ未熟で指導の継続が必要である。今年度は4月にケータイ安全教室がmeetで実施できた。Stop itの情報が指導に役立っている。  面接週間中ではなく生徒のニーズに合わせて特支科による面談を実施した。教員研修については12月に変更し実施する予定である。また6月の教育相談保護者の会では、県下の感染状況の影響のため参加希望者が少なかったため、個人面談に変更した。	b	b	SNSの利用について全体に注意をしてきたが、まだまだ理解不足で、トラブルの原因になっている。相手の気持ちを考えられるように、また使用方法についても粘り強く指導していきたい。  10月の教育相談保護者の会は少人数であったが開催することができた。本校での配慮や支援について教員が説明するのではなく、上級生の保護者から体験談の中で紹介していただき、学年を超えた情報交換ができて大変有意義であった。	b
	(4) 特別支援教育の充実を図り、多様な特性に対応できる教育体制の強化を進める。	障がい者就職支援の情報をひきつづき収集する。	教育相談、保健室との情報共有を図り、障がいのある生徒の進路支援の体制を準備する。	教育相談室、保健室からのこまめな情報提供で助かっている。	b	a	特徴のある生徒について、各方面の協力体制により希望の進路実現ができた。	a
3 進路指導 (目標を明確にさせる)	(1) インターンシップを推進し、キャリア教育の充実を図る。	インターンシップ可能な会社の確保につとめる。生徒に対してインターンシップの意義について様々な場面で説明し理解を深めさせ、積極的に参加させる。	企業にインターンシップについての理解を求め、幅広いインターンシップ先の確保を目指す。コロナ禍であるが、配慮しながら生徒の参加人数の増加を図る。	今年度も難しい情勢だが、企業の協力で昨年並みに実施できている。	b	企業の協力でおおむね予定通り実施できた。	b	
	(2) 積極的に求人開拓を行い、生徒の自己実現を支援する。	進路情報提供・進路相談・応募前見学・新聞等の取組・面接指導等をおおして、自分で進路決定ができるように指導する。	3年生全員の進路実現を目指す。	担任・科のきめ細かな指導のもと、生徒との信頼関係も良く、進路指導は順調である。	a	B	担任・科・保護者との連携も良く、生徒との信頼関係も出来ており、進路指導は順調であった。	a
	(3) 進学指導体制の充実を図る。	進学希望者に適切な情報提供を行い、目標を定めさせ、補習や自学自習プランに参加させる。	進路指導課と連携を取りながら早い時期より適切な情報提供し、目標を決めさせて対策を立てていく。	ほぼ本人の希望通りの進路を受験することになる予定。	b	b	3年生はほとんどの生徒が希望通りの進路を受験し合格することができた。	b
4 魅力ある工業高校づくり (生き抜く力を育て)	(1) 工業の各分野の学習において、「ものづくり」の意識を高める取組を重視する。	ものづくりコンテストや課題研究等を行うなかで、自ら創造し完成させる過程で、ものづくりの意義・達成感を体験させる。  各学年に、ものづくりを意義させる実習テーマを配置し、知識・技術を身につけさせる。	生徒自らが計画・実行・評価・改善ができる。  ものづくりに必要な興味・知識・技術は持ち合わせていない。ものづくりに興味を持って、知識・技術が身につくようにさせる。	課題研究やものづくりコンテストなどで自ら進んで作業に参加している生徒が増えた。  ものづくり大会等積極的に参加し成果を上げている。課題研究においても生徒主体の活動ができる。	a	積極的にものづくりコンテストやロボットコンテストに参加する生徒が増えた。	a	
	(2) のものづくりを通して、エネルギー環境教育をさらに発展させる。	環境学習センターと連携して、環境に配慮したものづくり教室を小学生対象に行う。  BDF、燃料電池、新素材の技術を活用して環境教育を推進する。	環境学習センターと連携して、生徒主体のものづくり教室を行っている。今年度は30名の小学生を対象に実施する。  環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせ、さらなる向上を目指す。	2年生20名が講師として参加し、参加保護者からも概ね好評評価を得ることができた。  環境ミーティングへ参加を行った。	a	a	生徒が講師として参加し、参加した生徒も充実した活動ができた。参加保護者、環境学習センター職員からも好評評価を得ることができた。  環境ミーティング、海ゴミプロジェクト、海ゴミフォーラム、高梁川流域未来人材育成事業に参加し、環境に対する意識を向上させることができた。	a
	(3) 資格・検定の取得を一層推進する。	資格取得を通じて本物を目指す姿勢を養い、自信と誇りを持たせる。	各種技術顕彰取得者を昨年度より増加させる。(昨年度ジュニアマイスター41人、職業教育技術顕彰21人)	前期の申請はジュニアマイスター顕彰31人、職業教育技術顕彰11人であった。後期の申請により更なる増加を目指す。	b	B	資格取得全般の成果として各種顕彰制度は増加傾向である。年度末に多くの申請を計画している。	b
	(4) 特別活動の活性化を進める。	各行事において、生徒会や各委員会の役割を明確にし、より多くの生徒が行事の運営に関わることでできる体制をつくる。また、生徒の主体性やコミュニケーション能力、発案力の育成を図る活動を増やしていく。  夢を育む教育を実践して活力を高めるとともに、効果的な連携により効率化を図る。	学校行事では、リーダーシップのある生徒を中心に準備・運営をしているが、一部の生徒に負担が集中しているクラスも見受けられる。クラス、専門科、学校全体で行事に取り組むことのできる環境作りに取り組む。生徒の主体性やコミュニケーション能力が育成できるような担任や専門科と連携する。  学科や学年を超えた指導体制を推進し、指導の質を向上させるとともに負担軽減を図る。	文化委員を2名にしたことで、生徒への負担を分散させることができているように思う。ポストコンテストの実施方法などを検討し、学校全体で行事に取り組めるような工夫をすることができた。今後予定している学校行事が、生徒が主体的に活躍できるものになるようにしていきたい。  複数の学科が協力して、ICTを活用した外部講習会や大学訪問による連携等を実施し、効果的な資格取得や開かれた学校づくりを進めた。	b	b	コロナによる制限はあったが、工夫して学校行事を実施することができた。学校事故防衛アンケートの「部活動やホームルーム活動、生徒会活動に積極的に参加している生徒が多い」という項目では、生徒83%(前年度77%)、保護者80%(75)、教職員81%(76)から肯定的回答を得ることができた。  実技を伴う資格取得や各種取組も動画や外部コンテンツを用いた遠隔接続を積極的に活用して成果を挙げた。講習会や高大連携もリモートにより効率的・効果的に実施した。	b
(5) MECIA思想の継続とプロジェクトの推進。	スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業を進める。	各専門分野においてプロジェクトを進めるとともに、ホームページ等で活動を伝えていく。	スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業を開始し、廃プラスチックの有効利用の取組みをスタートした。	b	a	廃プラスチックについて、有効利用の研究、再資源化の検討、燃焼装置の研究、海洋プラスチックの研究がすすんでいる。	a	
5 開かれた学校づくり (社会に貢献する)	(1) 授業公開、授業評価等を活用し、授業改善を図る。	保護者対象の公開授業週間・公開実習、教員対象の公開授業週間を実施する。また、授業評価アンケートを実施し授業改善の機会を設ける。  ICT機器を活用した授業を公開し、授業方法や有効性を確認し、ICT機器を活用した授業の充実を図る。	保護者向け公開授業及び公開授業週間を年2回設定し、教員同士の授業参観を促進する。合計5日以上を設定する。  授業評価等、公開できる情報を、ホームページに掲載し、本校の魅力を伝えていく。	1回目の保護者対象の公開授業週間は、5月10日から14日までの予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、急遽12日で取り止めた。3日間の保護者来校者数は17名だった。  課題研究に関連する情報を中心に公開されているが、さらに積極的に取り組む必要がある。	b	保護者対象の公開授業週間では、42名の参観があった。コロナ禍で保護者が学校行事に参加できないことが多い中で、実施できたことはよかった。授業評価アンケートでは44名の実施にとどまった。  課題研究に関連する情報を中心に公開されている。県の記事を受け取組が紹介された。	b	
	(2) 中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の充実を図る。	中学生保護者対象説明会を年2回開催する。また、学校案内やオープンスクール用チラシの改訂を行う。ホームページの更新を行い、積極的に情報発信を行う。  資格取得のニーズを把握し、情報をホームページに公開して各専門学科の魅力発信につなげる。  地域貢献を通じて開かれた学校づくりを行う。活動内容を発信し、魅力を広く伝える。	R4年入試での志望者360名(募集定員の1.13倍)、オープンスクールでの参加者2回合計千人以上を目指す。  掲載許可を一層促して昨年度以上の情報を公開する。  ホームページを使用して地域貢献の実践内容を中学生や保護者に発信する。活動内容を通じて入学志願者が増える。	7月3日に実施した第1回のオープンスクールでは、中学校49校、中学生455名、保護者200名の参加があった。新型コロナウイルス感染症対策を充分に行いながら、参加者全員に5つの専門科の見学をしてもらった。  合格者の情報を定期的にホームページで公開している。開示内容の工夫を魅力ある工業高校づくりにつなげた。  地域貢献活動は実施しているが、西阿知地区清掃活動などは中止となっているためホームページに掲載できないものもあった。	b	B	10月16日に実施した第2回のオープンスクールでは、中学校40校、中学生222名、保護者66名の参加があった。また保護者対象説明会には33名の参加があった。学校案内とオープンスクール用チラシの改訂、ホームページの更新を行い、積極的に情報発信を行うことができた。  今後はホームページに掲載する資格取得の種類増加を目指す。  学科の特色を生かして実施された社会貢献活動の内容をホームページに掲載し、地域や中学生、保護者に知らせることができた。	c
	(3) 社会貢献活動に積極的に取り組み、地域との連携を一層密にする。	倉敷市立船穂図書館協働事業の活性化  西阿知地区清掃奉仕活動への積極的な参加を促す。多数の希望者がいた場合は、校内清掃にも分担を当てる。	2回実施で、参加者16名以上  西阿知地区清掃奉仕活動を2回実施し、各回とも240名以上の参加を目指す。	7月30日に10名の参加があり、2回目の参加に期待する。  5月(1学期中間)延期、7月(1学期期末)中止となり未実施。10月(2学期中間)を募集し、半数が参加予定。	a	a	年間3回実施し、13名の参加があった。  秋季に1度だけ西阿知地区清掃奉仕活動を実施。472名の生徒が参加。社会貢献活動日数が5日を超えていても参加する生徒がいた。	a
	(4) 安全な教育環境づくり(危険予知能力を育成する)	整備委員会を中心に、5S運動を推進し、学校環境の整備に努める。  疾病予防のための指導を行う。  実習前に5Sの啓蒙指導を行い、実習中も事故が発生しないような指導と授業づくりを行う。	各種行事での清掃活動協力6回、下足箱点検5回、清掃分担区域点検3回、教室整備などで、5S運動を実施し、校内美化が行き届いているようにする。  コロナ・インフルエンザ等の感染症予防のため、感染が予想される時期に消毒用アルコールを配置する。  教員から指導されなくても実習後整理・整頓・清掃ができる。全員が実習服で作業を行う。不注意による怪我ゼロになる。	整備委員会活動は徐々に実施されてきた。  教室入口等の適切な位置に設置し、有効に使用されている。今後も継続していく。  実習前の安全教育がしっかり行えたが、作業服を忘れる生徒が多少いる。	b	B	西阿知清掃奉仕活動での土壌処理、防災訓練時の土足マット設置及び片付け、文化祭整備係で整備委員会としての活動を実施した。  手指消毒用のアルコールの設置だけでなく、予防対策の呼びかけなども全職員で協力できた。  実習前の安全教育をしっかりと行い、怪我の発生をゼロに抑えることができた。忘れ物をする生徒がまだ、多少いる。  防災訓練(火災)の翌日に防災LHR(水害)をリモートで実施できた。地震、火災の際の避難行動に対する知識を得ることができた。	a
(5) 危機管理・防災教育を徹底する。	防災訓練や防災LHRをとおして、防災に関する知識を深め、危険予測に基づいた判断力や行動力を養う。	防災訓練を年2回実施、抜き打ち地震訓練、防災LHRを実施し、防災意識の向上が認められる。	防災訓練(地震)は、グランド避難は実施できず。代わりにリモートで産学の実施し、防災意識の向上を図ることができた。	b	b		b	